

OUTLINE

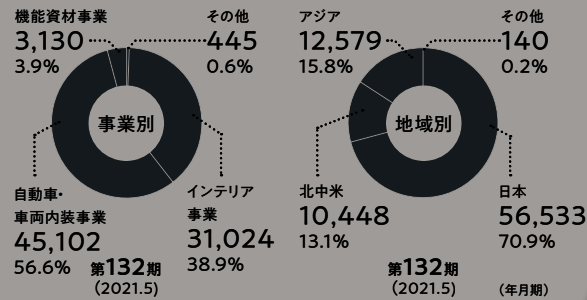
会社概要 | 2021年5月期

会社名 住江織物株式会社
 Suminoe Textile Co., Ltd.
 URL <https://suminoe.co.jp/>
 本社所在地 〒542-8504
 大阪市中央区南船場三丁目11番20号
 TEL:06-6251-6801
 創業 1883年(明治16年)
 合資会社創立 1913年(大正2年12月25日)
 株式会社設立 1930年(昭和5年12月26日)
 資本金 95億5千4百万円
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
 従業員数(単体) 253名
 従業員数(連結グループ) 2,724名

売上高 | 797億円

営業利益 | 10億円

売上高構成比



設備投資額 | 22億円

研究開発費 | 9億円

主要国内グループ会社

- 株式会社スミノエ
- ルノン株式会社
- 住江物流株式会社
- スミノエ テイジン テクノ株式会社
- 住江テクノ株式会社(滋賀工場)
- 住江テクノ株式会社(奈良工場)
- 帝人テクロス株式会社
- 尾張整染株式会社(本社工場)
- 尾張整染株式会社(石川工場)
- 丹後テクスタイル株式会社
- 株式会社シービーオー

S・I・P | スミノエ・インテリア・プラザ

- ⑩ 大阪ショールーム
- ⑪ 東京ショールーム

海外グループ会社

- Suminoe Textile of America Corporation
- Bondtex, Inc.
- Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.
- 住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司
- 蘇州住江小出汽車用品有限公司
- 住江織物商貿(上海)有限公司
- 蘇州住江織物有限公司
- T.C.H. Suminoe Co., Ltd.
- PT. Suminoe Surya Techno
- PT. Sinar Suminoe Indonesia
- Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd.
- Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd.
- Suminoe Textile Vietnam Co., Ltd.

SUMINOE GROUP ESG REPORT

FOR THE NEXT

快適な空間と 彩りのある暮らしを、 これからの100年も。

[住江織物グループ ESGへの取り組み]

人と環境にやさしい製品づくりでサステナブルな企業へ、社会へ。

住江織物は、1883年(明治16年)、村田伝七が現在の大阪市住吉区に手織り織通の工場を開いたことからはじまります。この家内工場が、やがて帝国議会議事堂の織通や国鉄のシート地を手掛け、日本の敷物業界の夜明けをひらいてきました。環境保全や公害規制が求められるようになった昭和40年代には、無公害カーペット工場である奈良工場を建設。以降、ますます深刻化する環境問題に対し、「K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)」という開発理念のもと、メーカーの社会的責任として自社商品の環境負荷低減に取り組んできました。



SUMINOE ESG HISTORY

明治～昭和 1883～1989

- 1883 明治16 創業者 村田伝七が織通機3台を購入、米穀商を営むかたわら織通づくりを開始
- 1913 大正 2 住江織物合資会社を創立
- 1930 昭和 5 住江織物株式会社を設立
- 1970 昭和45 当時として東洋最大の無公害カーペット工場、奈良工場を建設

平成 1989～2019

- 1990 平成 2 使用済みペットボトルから再生ポリエステル糸「スミトロン®」糸を実現
- 1992 平成 4 脱塩ビによるダイオキシン対策 タイルカーペットバック材「エコバック®」を発売
- 1993 平成 5 「スミキューブ®」の前身となるポリエステルシートクッション材を発売
- 1997 平成 9 京都議定書の採択
- 1998 平成10 24時間サイクル消臭「トリプルフレッシュ®」を開発
住江織物グループ環境対策宣言「KKR+A」を発表
- 2002 平成14 ルノン「空気を洗う壁紙®」の前身となる「トリプルフレッシュ®壁紙」を発売
- 2010 平成22 「トリプルフレッシュ®バイオフィルター」を使った家庭用置き型 脱臭・消臭剤「Tispa」シリーズを発売
抗ウイルス機能繊維加工技術「CLEANSE®/クレンゼ®」製品を発売
- 2011 平成23 水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」を発売
- 2015 平成27 パリ協定の採択
- 2016 平成28 「トリプルフレッシュ®デオ」製品を発売

令和 2019～

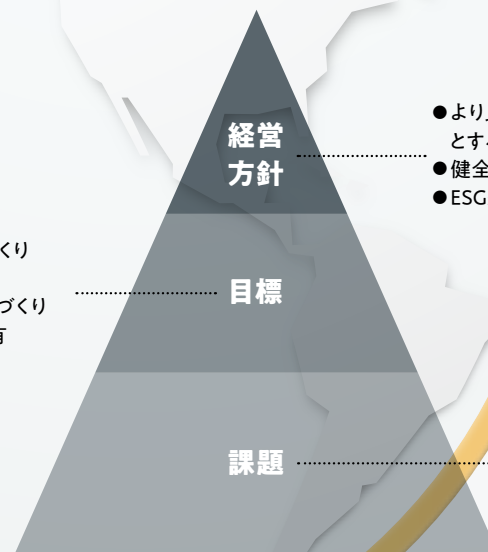
- 2019 令和 1 消臭・抗菌・抗ウイルス・抗アレルギー物質・防ダニ 複合機能加工「クインテック®」を開発
- 2020 令和 2 水系ポリウレタンレザー「EF-Leather」を発売
- 2021 令和 3 廃棄漁網由来の再生ナイロン糸を開発

[中長期経営目標]

SGW SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027

2021年7月、ESG経営を基礎とした中長期的な方針を定めました。

- 売上拡大、成長への基盤づくり
- 財務体質の改善
- 社員の幸せにつながる職場づくり
- 会社と社員のビジョンの共有



- より良いビジネスモデルを構築し 社会が必要とする企業としてグローバルに成長する
- 健全な利益を上げ 次の成長への投資をする
- ESG経営を強化する

- CO₂排出量の削減、環境対策商材の開発・販売
- コスト競争力の強化
- オンリーワン商材の開発
- 抗菌・抗ウイルス加工商材の拡販
- 安全・安心な職場環境
- 多様な人材の活躍・人材育成
- ガバナンスの強化
- 基幹システムによる業務効率改善
- 企業ブランド価値の向上

Environment

- 環境
- CO₂排出量削減への取り組み
 - 環境対応型商材の開発

Social

- 社会
- [社員への取り組み]
- 安全・安心な職場環境の整備
 - ダイバーシティ&インクルージョン
 - 人材育成、人材活用
 - 全方向コミュニケーション
- [社会貢献活動]
- 災害時における貢献
 - 貧困・飢餓への支援寄付

Governance

- ガバナンス
- 基幹システムの再構築
 - 社外取締役による経営の意思決定の強化
 - 歩き回る経営による双方向コミュニケーション
 - コンプライアンス研修の継続実施
 - 「企業倫理ホットライン」のさらなる周知
 - グローバル・リスクマネジメントの強化
 - BCP行動計画

中長期
経営目標
ESGへの
取り組み

3か年計画

連結収支目標 (2024/5期)

売上高	934億90百万円
営業利益	33億円
経常利益	35億30百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	19億60百万円

投資計画 (2022/5～2024/5期 合計)

設備投資/M&A	60億円
基幹システムの再構築	7億円
事業所再編、物流網の改善	33億円

使用済みタイルカーペットを資源に。同一製品間で循環させることにより、サステイナブルな社会を目指します。

1990年、住江織物グループは使用済みペットボトルを原料にしたポリエステル再生繊維「スミロン®」を開発。
使用済みタイルカーペットの循環リサイクルなど、地球環境負荷低減の取り組みを積極的に進めています。

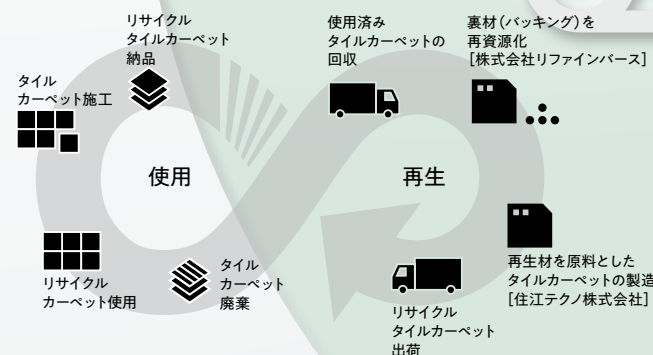
ENVIRONMENT



実績を重ね、これまでの10年間で累計約9万トンのCO₂を削減
これからの10年間で約22万トンの削減を目指します

タイルカーペットを循環させる枠組みを確立

従来、使用済みタイルカーペットは埋め立て処分するしかありませんでした。当社グループは株式会社リファインバースと協業し、タイルカーペットを同一製品間で循環させるリサイクルシステムを確立しました。



水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」

2011年に発売した「ECOS®」は、メーカーとしての「つくる責任」を果たす、環境への配慮と経済性を両立した商品です。

《特長》

- 業界トップクラスの再生材比率最大84%、CO₂排出削減貢献量最大43%を達成
- 製品重量は従来品から5%軽量化
- バージン品と変わらないコストパフォーマンスを実現



使用済みペットボトルから繊維を開発 スミロン®

再生したポリエステルチップを50%以上使用した繊維「スミロン®」は、省資源化に貢献するとともに、耐候・耐熱性に優れているため、製品の長期利用が可能です。最近では廃棄漁網由来の再生ナイロン糸を開発しました。



鉄道車両用シートクッションをより安全に スミキューブ®

燃焼時に有毒ガスが発生しないポリエステル素材の「スミキューブ®」は、環境にやさしいシートクッション材です。JR・私鉄・新幹線の車両などで幅広く使用されています。



環境に配慮したカーペットの着色 原液着色糸

当社グループは排水処理が必須で、大量の水・電力を使用する「後染め」方式から、「原液着色糸(紡糸段階で顔料による着色を施した糸)」の使用に転換しています。

《原液着色糸の特長》

- 排水の問題がない
- 水・エネルギーの削減からCO₂排出量が少ない
- 耐光堅牢度、耐薬品性に優れている



植物由来のポリエステル材料を使用したシート表皮材 バイオウーブン/バイオフラット

植物由来ポリエステル材料(植物度30%)からなるシート表皮材。従来のバイオ由来繊維に比べ生産性・コストの面で優れているだけでなく、石油由来ポリエステル材料を用いたシート表皮材と同様の性能を有し、意匠や風合いの再現も可能です。

※日産自動車株式会社「LEAF(リーフ)」のG/Xグレードに採用



水を使った健康と環境にやさしい合皮シート EF-Leather

従来のウレタンレザーは溶媒にDMF(有機化合物)が使われており、製品に残留したDMFが健康と環境に悪影響を与えると考えられてきました。当社グループの水系ポリウレタンレザー「EF-Leather」は、溶媒に水を使用。健康と環境にやさしい素材として、日系自動車メーカーのシート表皮材にも採用されています。

繊維で時代に応じた対策を。 インテリアのパイオニアとして、 社会に求められる技術開発 を進めています。

シックハウス症候群が問題になった1990年代、住江織物グループは原因物質を吸着・分解する独自消臭加工技術を開発することで課題解決に取り組みました。その後も介護現場や住環境でのニオイの消臭、抗菌、抗ウイルス、抗アレル物質など、時代の要望に合わせて、独自加工技術の強化を図っています。

S O C I A L

社会課題解決型製品の提供



繊維上の特定のウイルスの数を減少させる

クレンゼ®(倉敷紡績株式会社)

約10年前からインテリア事業において、抗菌・抗ウイルス機能繊維加工技術「クレンゼ®」を活用。抗ウイルスの機能を持つカーペットやカーテンを開発し、主には医療・福祉・教育施設向けとして展開しています。2020年には日本交通株式会社の高速バス内の座席間カーテンに採用されるなど、安心して過ごせる空間づくりに貢献しています。



介護、医療、生活のニオイを吸着・分解

トリプルフレッシュ®デオ/クインテック®

消臭加工技術を軸に開発した複合機能加工技術「トリプルフレッシュ®デオ」は、消臭・抗菌・抗ウイルス・抗アレル物質の4つの機能を有し、介護用ベッドマット、車椅子用クッションなどに展開されています。その技術に防ダニ性能を加えた「クインテック®」はカーマットとして自動車メーカーに採用されました。

生活様式の変化に対応するサービスの提供



Eコマース、WEBマーケティングによる新たな提案を

外出自粛やテレワークなど、生活様式が大きく変化するなかで、外出しなくても安心して商品をご購入いただけるよう、当社グループのインテリア事業におけるEコマース事業を強化しています。また、SNSによる情報発信やデジタル展示会、商品説明動画の配信など、WEBマーケティングにも注力し、新しい生活様式に適した提案を続けています。

Column

多様な人材が、いきいきと活躍できる職場環境へ

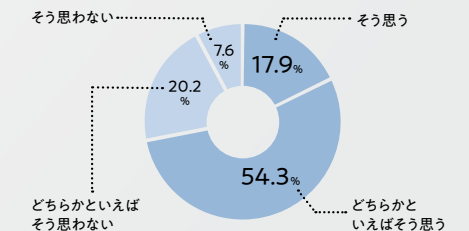
当社グループは、企業の持続的成長の源泉は人材であり、一人ひとりが能力を最大限発揮し成長することが重要と考えています。性別・年齢・国籍を越えて多様な人材がいきいきと活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

従業員数	連結グループ 2,724名	
国内外従業員比率	海外42.9%	国内57.1%
グループ全体男女比率	男性62.9%	女性37.1%
平均年齢*	男性47.4歳	女性43.5歳
平均勤続年数*	男性16.6年	女性12.5年
入社3年以内の離職率	6.5%(住江織物単体/2018-2020新卒実績)	
60歳到達時の再雇用率	93.6%(住江織物単体/2016-2021実績)	
月平均残業時間	10.6時間(住江織物単体)	
女性の育児休業取得率*	100%	

(2021年5月末現在) *国内グループのみのデータ

働きやすさアンケートの実施

年に1度「働きやすさアンケート」を国内・海外グループ会社、全社員を対象として実施しています。「わたしは、総合的に見てこの会社で働くことに満足している」という質問に対し、7割超の社員が肯定的でした。



アンケート調査の主な回答集計(一般・契約社員の結果)
※国内・海外のグループ社員全員を対象に実施。「業務」「職場」「会社風土」など8つの分野の設問があり、各設問に対して4段階で回答する選択形式と自由記述の2種類があります。(上記のアンケート結果には海外の社員からの回答は含まれていません。)

住江織物グループは法令・企業倫理を遵守し、社会から信頼される企業を目指します。

社会から信頼される企業であるために、法令・企業倫理を遵守したコンプライアンス経営を実践。高い倫理観を持って企業がバナンスの強化を推進しています。

GOVERNANCE



“歩き回る経営”—不正を起さない組織づくり

経営幹部が事業所や国内外のグループ会社を訪問し、各現場の従業員から直接生の声を聞く“歩き回る経営”を実践しています。積極的な双方向コミュニケーションを図ることで、現場の孤立を防ぎ、不正を起さない組織づくりに取り組んでいます。



コンプライアンス研修の継続実施

「コンプライアンス・ガイダンス」をツールとして、入社時と各階層別研修時にコンプライアンスについての講義を実施。各事業所・グループ会社においてもコンプライアンス研修を継続的にを行っています。



企業倫理ホットライン

法令や企業倫理に反する行為などを発見したときの通報受付窓口として、社内に「企業倫理ホットライン」を設置。また、社外にも「弁護士窓口」「ハラスメント専門窓口」「健康相談窓口」を設け、従業員が安心して気軽に相談できるよう、各社内研修などを通じて窓口の周知および利用を促しています。



コーポレート・ガバナンスの基本方針の制定

コーポレート・ガバナンスの基本方針として、「住江織物グループ企業行動規範」・「住江織物グループ企業行動基準」を制定。常に自らの考えや行動が、法令・企業倫理に沿ったものであるよう心がけています。



社外取締役による経営の意思決定の強化

当社の取締役8名のうち3名が社外取締役であり、当社事業と直接関係のない分野の会社経営者や役員、弁護士など、多様な経歴を持つ者で構成されています(2021年5月末現在)。より多面的な視点を経営に導入することで意思決定の強化を図っています。



グローバル・リスクマネジメントの強化

グローバル化に伴って多様化するリスクを最小にとどめるため、特に海外事業におけるリスクマネジメントの強化に努めています。また、リスク低減にはIT統制が有効な手段であると判断し、グローバルガバナンスを目的とした“基幹システムの再構築”を推進しています。



BCP行動計画

災害やパンデミック発生時の対応として、自社の重要な業務の継続と被災からの迅速な復旧を目的としたBCP行動計画を策定。お客様への損害を最小限にするためには、迅速で正確な情報収集と情報発信が大切と考えています。

※BCP: Business Continuity Planning の略称で、災害や事故などの緊急事態が発生した際に事業の継続や復旧が速やかに行えるよう策定される計画。

(時間/空間/間合)

「間」を彩り、より快適に。 “ONE SUMINOE”で挑む 次世代空間づくりが 始まっています。

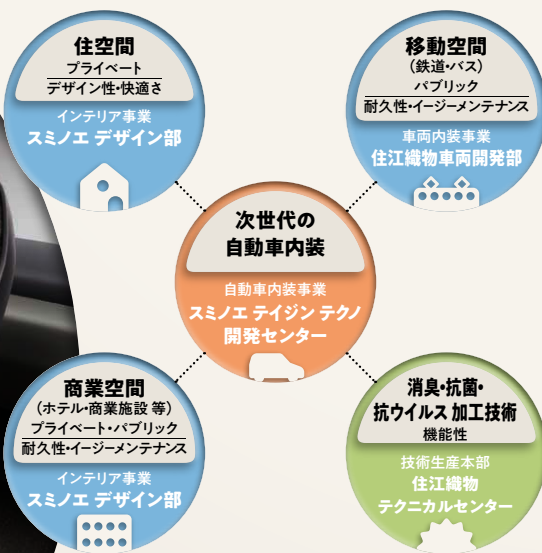
次世代のカーインテリアを総合力で提案。

いま、自動車産業は100年に一度の転換期を迎えています。自動運転技術の開発が進み運転席・助手席といった区別がなくなれば、車内は乗っている人全員が自由に過ごせるプライベートな空間となります。また、カーシェアリングが進めば、自動車はみんなで共有するパブリックな空間となることが予想されます。そこには高い耐久性とイージーメンテナンス性が求められるでしょう。プライベートかつパブリックな空間。この一見相反する二つの要素を持ち合わせている空間に、ホテルの客室が挙げられることから、ホテル内装を手掛けるインテリア事業部門と自動車・車両内装事業部門の両者がタッグを組み、次世代の車内装をつくり出す新プロジェクト“I.I.2.0(インテリジェント インテリア 2.0)”を開始しました。

I.I.2.0

Intelligent Interior 2.0

130年を超えて培ってきたその強みを活かし、各空間のプロフェッショナルが技術と知見を持ち寄り、CASE・MaaS時代の新たなカーインテリアのデザインを探索していきます。



「面」の演出から、「空間」全体の設計へ

当社グループのインテリア事業は、カーペットや壁紙など「面」を彩る製品の製造販売により高く評価されてきました。今後は「面」の提案にとどまらず、「空間」全体の設計・デザインにも事業領域を拡大。商業施設をはじめ、ホテル、オフィス、さらには保育園・学校、医療施設において、お客さまのご要望をさらに高いレベルで具現化していきます。

FOR THE NEXT



イノベーションを生み出す、 住江織物グループの研究・技術開発

住江織物グループには、研究開発部門であるテクニカルセンターに加えて、各事業部門にもデザインや先行開発・量産開発を担う開発チームがあります。開発担当と営業担当による新規商材の開発会議を定期的に開催するなど、開発・営業・製造部門の連携を強化。高い機能性とデザイン性を両立させた製品など、今までにない革新的な技術の研究開発を行っています。

